

3本の柱とインターネット集患で拓く 自由と選択肢に満ちた医師生活

梅華会グループ 東長崎駅前内科クリニック

吉良・文孝

キーワード フリーランスからの開業 一般・専門・自費の3つの柱
インターネット集患

クリニックプロフィール

専門科	内科・消化器内科・肝臓内科・内視鏡内科
開院年	2018年6月
地域	東京都豊島区
スタッフ人数	9名
分院	なし
理念	おなかの悩みから解放されることで人生を楽しく過ごせる お手伝いがしたい

はじめに

当院は西武池袋線で池袋から各駅停車で2駅先にある東長崎駅北口を降りてから歩いてすぐの場所にあります。東長崎は豊島区にありながら、高層マンションなどが無いのどかな街です。開業前までは東長崎に縁もゆかりもありませんでしたが、駅に降り立った瞬間、この街の雰囲気惹かれ、すぐに開業を決めました。

現在、私は優秀なクリニックメンバーに囲まれています。一人ひとりのクリニックメンバーが自分の担当はもちろん、それぞれの特技を生かした業務もこなして、クリニックの魅力をつくってくれています。その甲斐もあって、縁もゆかりもないにもかかわらず、地域に根付いたクリニックを実現させることができました。それと同時に、一般内科、消化器・内視鏡内科と

自費診療でも多くの患者様に来院いただいております。都外から足を運ばれる方も少なくありません。

独立に至るまで、多くの先輩の力を借りました。また、私自身、フリーランスの医師になったり、会社勤めをしたりと、さまざまな経験を通して自分なりの答えを導き出してきました。いわば、血肉を注いで得たノウハウです。もしかしたら、セオリーに準じていないかもしれませんが、今日までクリニックを成長させてきたことは事実です。

本章では、そうしたノウハウを余すことなくお伝えします。これから開業を考えている先生のお役に少しでもなれたらうれしいです。

1 大学卒業から勤務医へ……そしてフリーランスと会社経験を経て開業医の道へ

(1) 勤務医経験と芽生えた想い

母校である東京慈恵会医科大学卒業後、私はすぐに大学の外に出てしまいます。大学のしくみが性に合わなかったのかもしれませんが、自分の意思と関係なく、関連病院に飛ばされたり、年功序列の色濃いカンファレンスが開催されたりと、封建的なしくみが窮屈だったのです。このまま大学の中にいるよりも、外に出た方が自分の世界が広がると思いました。まずは経験を広げながら、自分の専門を決めていこう。そう決めた上で何をやるかよりも、どこでやるかを優先して外の世界に飛び出しました。

研修でお世話になったのは、東京警察病院です。警察病院へは先輩からの話のみで事前の見学もせずに入局をしました。当時は旧臨床研修制度でしたので、内科全部を2年間かけてローテーションしたので、良悪性を問わずあらゆる内科疾患の検査治療を担当しました。文字通り、寝る間も惜しんで働きました。その結果、血管カテーテル検査や内視鏡検査といった内科医がおよそ施行する手技も経験し、医師としてのスキルを着実に身につけました。

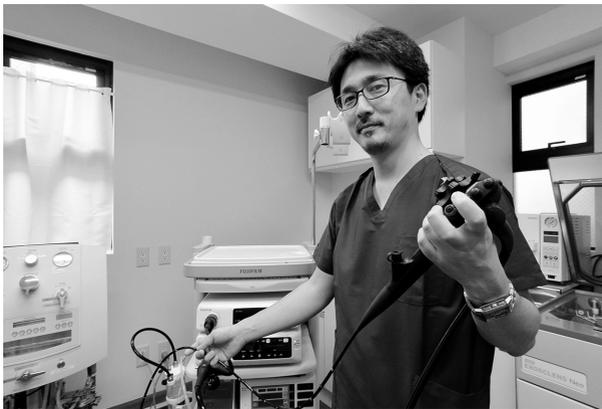
研修終了後は当時の部長の人柄にひかれて消化器内科に入局します。勤務

● 1. 大学卒業から勤務医へ……そしてフリーランスと会社経験を経て開業医の道へ

を続ける中で、病院組織の窮屈さに違和感を感じるようになり、私は8年間務めた東京警察病院を退職し、JCHO 東京新宿メディカルセンター（旧 東京厚生年金病院）に入局します。そこでも同様の窮屈さをはじめ、保険診療の限界や収益を求める体質に違和感を感じながら、それを押し殺して勤務していました。当時、日本でも注目をされ始めたマインドフルネスを自身でも実践し、自分の思いと正直に向き合う作業を通して、どんどん勤務医に対する違和感が膨らんでいきました。「もっと自由に活動したい」……そういう気持ちが高まっていったのです。“自由”と“選択肢の広さ”。今、振り返ると、その二つが仕事するうえでの私の選択のベースになっていました。それが独立開業へ私を導いていきます。

(2) サイキンソーでの会社員経験

すぐに開業をするという選択も考えましたが、当時セミナーで出会った株式会社サイキンソーCEOの沢井悠氏と付き合いがあり、「うちで働いてみませんか」とお誘いを受けました。同社は腸内細菌の先駆けの会社です。新進気鋭のベンチャー企業とあって、熱意と自由の雰囲気には溢れています。「こういう世界に飛び込んでみるのも面白いかもしれない」、ちょうどタイミングが良かったこともあり、思い切ってJCHO 東京新宿メディカルセンター



を退職し、フリーランス医師としてアルバイトをやりながら株式会社サイキンソーでの勤務を開始しました。開業をするかどうかはともかく、その可能性は前から考えていたので、勤務医を辞める決心をしたころから、念のための開業の準備を開始しました。2017年3月のことです。

しかし、出張をしたり、クライアント先に出向いたり、オフィスで資料をつくったり、プレゼンテーションをしたりと今までにない生活を楽しむ一方で、「デスクワークには向いていない」と気が付きました。これは長く続けられないな、と。

会社員生活と医師としての仕事という二足のわらじを履く生活を通して、研究よりも臨床が好きだとあらためて実感しました。とはいえ、このまま臨床に戻ってしまったら、何も変わりません。おそらく組織に違和感を覚え、また飛び出してしまうでしょう。まさに元の木阿弥です。ならば、このまま開業をした方が良いと思い、勤務しながら開業の準備をさらに加速させることにしました。

実際に経験をして納得してからでないと決断できないのかもしれませんが、さまざまな経験を通して、“自由で選択肢が広い”という自分の譲れない軸を見つけることができました。そんな私にとって、開業医は理想の職業です。このとき独立することに対する迷いは全くありませんでした。

2 フリーランスに転身したことによる威力

私が開業するにあたって最も効果が高かった行動のひとつにフリーランスに転身したことがあります。フリーになるという事は、すべての時間を自分でコントロールすることができるのです。開業までにこのような時間ができるとの威力ははかり知れません。

フリーランスになったことに得られたメリット

1. 開業に関する勉強の時間が確保できた
2. 戦略を練る時間を確保できた
3. 納得できる立地を選ぶことができた
4. 納得できる業者さん選定, 機器選定ができた
5. インターネットに対しての理解を深めることができた
5. 家族との時間が確保できた

(1) 開業に関する勉強の時間が確保できた

何と言っても圧倒的に自由な時間ができました。労働時間は勤務医時代の半分程度でしたが、アルバイトなどをすることで勤務医時代となら変わりない給与を容易に確保することができ、生活面での質の低下は全くありませんでした。

作りだした時間をさまざまなことに使うことができました。特に経営に関しての勉強に時間をさけたことは非常に大きかったと思います。1年間で100冊以上の本を読みました。経営に関すること以外にマネジメント・リーダーシップ・マーケティング・ITに関するものなど本当に多くの種類のものを読みました。また平日に開催されているセミナーにも参加することができ、知識とともにそこで知り合った人たちとのつながりもある程度できました。

勤務医のままで同じことをしようとする、数年はかかったことだと思いますので、**時間の短縮効果**は計り知れないです。

(2) 戦略を練る時間を確保できた

開業の立地を選ぶことは、まず最初に考えるべきところだと思います。ただ当時の私は一体どのような開業をしたいかということを書くことはできませんでした。土曜日は休みにしたい、健診はどこまでやろう、ターミナル駅のほうがよい？ 内視鏡専門の方がよい？ などなど迷いがたくさ